

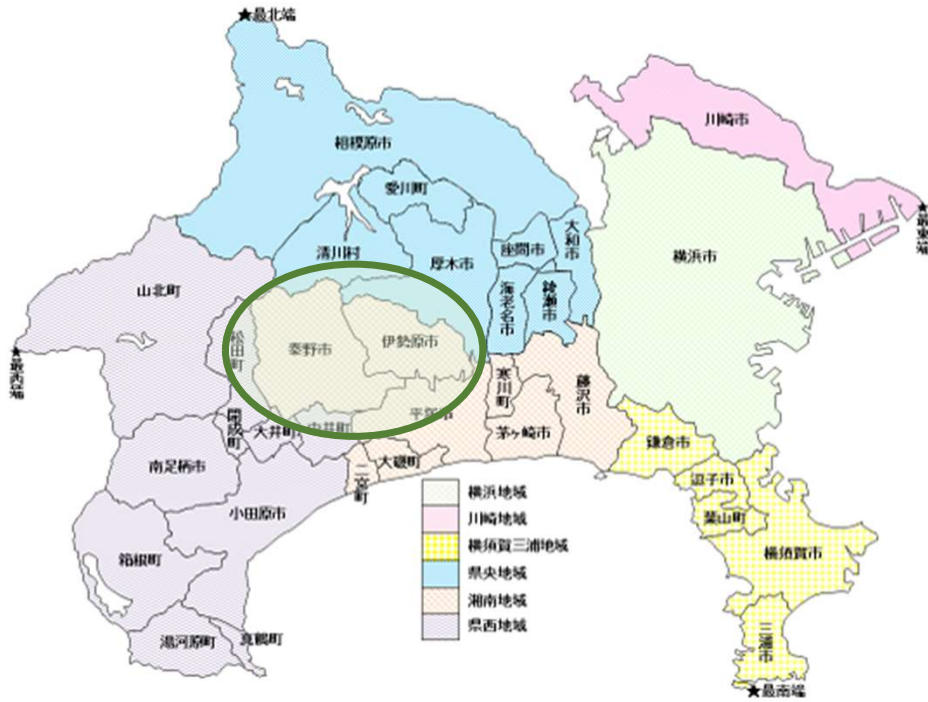
# 地域・職域ネットワーク

～ 秦野・伊勢原で働く人の健康と安全を考える会～



日 時：令和5年1月19日(木)  
開催場所：WEB会議

# 秦野市・伊勢原市（神奈川県）



## 伊勢原市

神奈川県ほぼ中央に位置

人口 101,343人

65歳以上人口比 26.8%

国定公園の一角に位置するシンボル  
「大山」を頂点として、東部に豊かな  
平野部が広がる。

## 秦野市

伊勢原市の西側

人口 161,630人

# 職域保健と地域保健

## 職域保健



対象：就業者

▼根拠法令

労働基準法、労働安全衛生法

▼目的

就業者の安全と健康の確保のための方策の実践を事業者、就業者に課している

連携が重要

## 地域保健



対象：乳幼児、思春期、働き盛り世代、高齢者

▼根拠法令

地域保健法、健康増進法、高齢者の医療の確保に関する法律、母子保健法

▼目的

生涯を通じて、健康の保持・増進を旨とした保健サービスを提供する

### 地域・職域連携とは

地域住民および従業員の健康支援に携わる専門職や関係者がそれらの人々の健康保持・増進に向けて、互いに連絡を取り、協働すること。

\* 「産業保健スタッフのための地域保健との連携実践ガイドブック」保健文化社, 2021より

必ずしもそれぞれの目的が一致しているわけではないが、**保健サービスには共通**したものがあ**り、連携が重要**

# 地域保健の実情



平成20年  
以前

- 老人保健法による基本健康診査
- 労働安全衛生法による健康診断

平成20年

- 特定健康診査・特定保健指導開始

令和4年  
現在

- 自治体に  
社会保険被保険者の健康診断の受診勧奨や保健  
指導の機会はない

## [課題]

地域全体の健康状態が見えにくい



地域・職域連携

保健サービス情報の共有化や取り組み事例の共有化、イベントの開催等、地域・職域連携が進むことにより

- 健康づくりの活性化
- 保健活動に関する認知度向上
- 地域保健サービス利用者の増加

地域全体の健康状態が見えてくる



# 地域・職域ネットワークの参加者

## < 地域保健 >



保健所：管理企画課) **保健師**  
保健予防課) 保健師  
保健福祉課) 管理職, 管理栄養士  
市役所 (秦野・伊勢原) : **保健師**

## < 医療機関 >



精神科・心療内科：精神保健福祉士  
精神科：若年性認知症支援コーディネーター

赤字：運営委員

## < 職域 >



大規模事業所：産業医, 産業看護職  
中小規模事業所：事業主, 人事・労務担当者 (安全衛生)  
神奈川県産業保健総合支援センター：保健師, 他  
平塚地域産業保健センター：コーディネーター  
平塚労働基準監督署：安全課長  
公社) 神奈川労務安全衛生協会平塚支部：事務局長  
秦野商工会議所：担当者  
伊勢原市商工会：担当者

## < 教育機関 >



東海大学医学部看護学科：公衆衛生看護学 (産業看護学) **教員**  
\* テーマ毎：感染看護学, 災害看護学, 家族看護学など

“地域・職域”だけではなく、実は “**産学官医連携**” となっている！

# これまでの主な開催内容

- **地域・職域連携とは？**

なぜ連携する必要があるの？ 何ができる？ 他地域での実践事例紹介

- **我が社の産業保健活動**

既にできていること、今後、取り組みたいことに関するグループディスカッション

- **中小規模事業場におけるメンタルヘルス対策**

初めてストレスチェック制度を導入する事業所担当者の疑問・質問にみんなで応える

- **健康講話・健康教育開催方法の共有**

保健所保健師の出前講座、市役所保健師、労働衛生機関管理栄養士の活用

- **地域・職域・大学連携による救命講習会の開催**

- **健康経営認証までの苦労と工夫の共有**

中規模事業場担当者の経験を紹介

- **従業員の高齢化と健康問題**

エイジフレンドリーな職場づくりとは？ 何から取り組む？ グループディスカッション

- **COVID-19に関する情報共有と中小規模事業場における取組み支援**

保健所が持つ最新情報の共有、消毒方法等が確立していない時期に大学教員からも知識提供  
積極的疫学調査や職場調査の方法、メンタルヘルス不調への取り組みの必要性等を共有

# 地域保健の実情



平成20年  
以前

- 老人保健法による基本健康診査
- 労働安全衛生法による健康診断

平成20年

- 特定健康診査・特定保健指導開始

令和4年  
現在

- 自治体に  
社会保険被保険者の健康診断の受診勧奨や保健  
指導の機会はない

## [課題]

地域全体の健康状態が見えにくい



地域・職域連携

保健サービス情報の共有化や取り組み事例の共有化、イベントの開催等、地域・職域連携が進むことにより

- ・ 健康づくりの活性化
- ・ 保健活動に関する認知度向上
- ・ 地域保健サービス利用者の増加

地域全体の健康状態が見えてくる



# 事業場の実情（健康増進面）



【事業場毎の段階イメージ図】

本ネットワーク参加の事業場も  
温度差あり（当然）



【各事業場での取組例の共有】

- ・ 特定健診・保健指導
- ・ 労働安全衛生法に基づく定期健診
- ・ ストレスチェック など



# 事業場の実情

会に参加しても、  
うちの困りごと  
とは違う

日々の業務で  
精一杯  
追加の事業は  
難しい



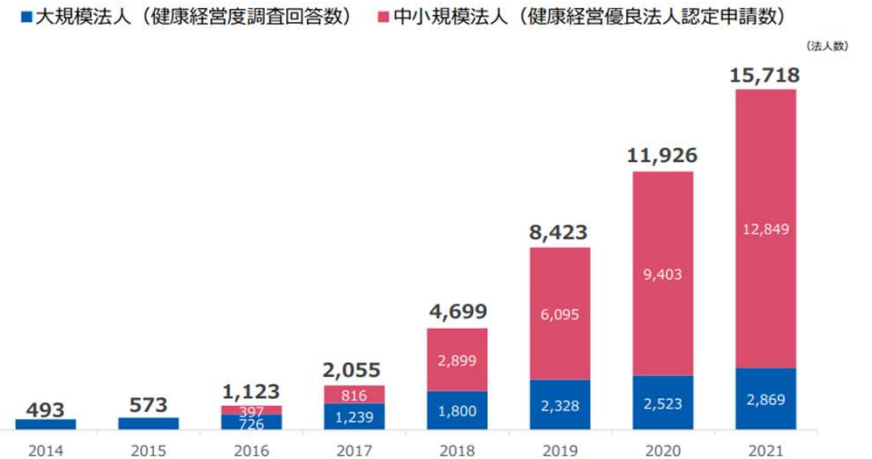
一方で、近年、健康  
経営の意識の高まり

令和4年10月17日	参考資料 1
第1回 産業保健のあり方に関する検討会	

抜粋

## 健康経営の拡大

- 健康経営認定制度にエントリーしている法人数は、約1万5千社に拡大。



- 2021年度は、日経平均株価を構成する225社のうち84%が健康経営度調査に回答。
- また、健康経営優良法人に認定された法人で働く従業員数は770万人。(日本の被雇用者の13%)

令和4年7月26日 健康・医療新産業協議会 第6回健康投資WG資料2より抜粋

50

# 市役所保健師としての思い

## よくいる保健師

「困っている人の役に立ちたい」



既存の制度でスムーズに生活されている家庭ではなく、それでは生活が回らない家庭を支援



(職域に置き換えると)

既存の制度では足りない  
中小の事業場にこそ  
関わりたい！

## 中小の事業場とのつながりを 持ちたい！

ネットワークに  
参加いただけると、  
小躍りするほど  
嬉しいです♡



# まとめ

## 地域・職域連携のメリットの共通認識

- 地域と職域が健康に関する情報を共有・活用することにより、**地域全体の健康課題をより明確に把握**することが可能となる。
- アプローチルートの拡大に繋がり、対象者が**保健サービスにアクセス**しやすくなる。
- 地域と職域で提供する**保健サービスの方向性の一致**を図ることが可能となる。
- 働き方の変化やライフイベント等に柔軟に対応できる体制の構築により、**生涯を通じた継続的な健康支援**を実施することが可能となる。
- 小規模事業場等**へのアプローチが可能となり、**労働者の健康保持増進**が図られる。

職域

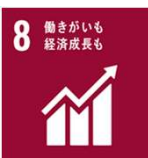
と

地域

がめざすところ

健康寿命の延伸や  
生活の質の向上

生産性の向上



ご清聴  
ありがとうございました。伊勢原市公式イメージキャラクター  
クルリン

